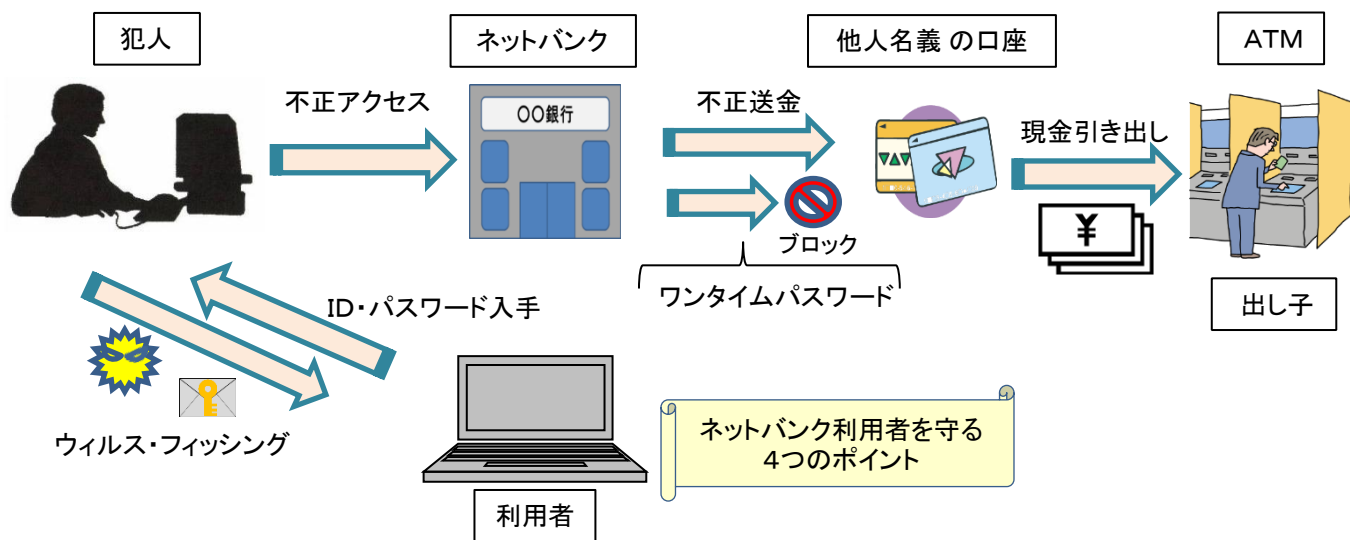


サイバー犯罪対策だより

ネットバンクを悪用した不正送金が急増 平成26年中 全国で29億円被害



インターネットを通じて、原則24時間いつでも利用できるインターネットバンキングは、とても便利である一方で不正送金の被害が絶えない現状があります。インターネットバンキング利用者のIDやパスワードを不正に取得した犯人が、勝手に他人名義の口座に送金する不正送金事件が急増しています。

平成26年中、全国の不正送金被害は、1,876件(前年比+561件)、約29億1000万円(前年比+15億400万円)でした。うち群馬県内の利用者に係る金融機関において、10件(前年比-3件)、約1650万円(前年比+1,050万円)の被害が発生しました。

被害防止の有効対策として、「ワンタイムパスワード」は安全性が高いとされてきましたが、既に、新型ウイルスによる被害が発生しており、現状では、ウイルスに感染しないこと以外で完ぺきに被害を防止することは困難です。

※ ワンタイムパスワードとは、パスワードが表示される小型端末やメールを使用して、ネットバンキングを使用するときに1回限りのパスワードを示す方法です。なお、メールで通知されるワンタイムパスワードの宛先を携帯電話のメールに設定すると安全性が高まると言われています。

ネットバンク利用者を守る4つのポイント

① ウィルス対策ソフトを使う

- 最新のウイルス対策ソフトを使うことで一定の効果が期待できます。但し、対策ソフトも完ぺきではありません。

② ソフトウェアは自動更新する

- OS(基本ソフトウェア)、ブラウザ、Flash、JAVAなどのソフトウェアを常に最新版にする。
- 自動更新に設定になっているか確認する。

③ ワンタイムパスワードを適切に利用する

- ワンタイムパスワードが提供されていれば積極的に利用する。

④ パスワードは複雑にして使い回さない

- なるべく長く、複雑なパスワードを使う。意味不明でランダムな文字列が望ましい。
- 他のパスワードと同じものを使わない。